



チツチ



クック



サツサ



千種高校周辺の歴史文化財

兵庫県立千種高等学校
平成26年7月制作



1 千種高校

「千種高校周辺の歴史文化財」と銘打つならば、千種高校の校舎そのものを見ずして周辺の歴史散策に出かけることはできないであろう。今年で創立66年、平成30年を以て70周年を迎える本校こそが千種近代史の語り部であり、季節ごとの彩りに恵まれたこの学び舎が私達の心の拠り所となっているのである。



早春



桜の季節

千種高校の校訓は「自立 信愛」である。昭和55年2月25日に制定され、校訓碑は昭和61年3月に定年退職を目前にされていた第3代校長榎本玉男先生が揮毫され、建立された。第11回卒業生の方々の卒業記念碑として、今も本館西の築山庭園に真西ではなく妙見社や日名倉山の方向を向いて立っている。



校訓碑（6月初旬）



夏

千種高校の庭園は、春夏秋冬どの季節を撮っても美しい。平成3年、テニスコートが中庭となり、ケヤキやアメリカハナミズキ、ニシキギ、ツツジ等を中心に植栽が為され、今に至っている。奥には珍しい白藤の棚も見えている。然し、四季の中で最も美しく凜とした姿を見せるのは冬の雪化粧の折りではないか。職員室やグラウンドから見える冬の三室山と共に、私たちの心を洗い清めてくれるのが大きな魅力である。なお、「自主敬愛の道」の碑が見えるが、昭和62年2月に第4代校長上山勝先生によって揮毫され、千種ライオンズクラブによって贈られた。建立当初は最奥のケヤキの位置に西向きに建てられていたが、上記中庭造営の折り現在の位置に移され、東向きに建てられたものである。



秋



冬

2 町内のおもな神社

(1) 千草の大森神社



大森の段(奥に八墓山、右奥は檜松山)



大森神社参道



本殿



お稲荷さん

(2) 河呂の大森神社 (千草の大森神社より古い)



参道



本殿



農村歌舞伎舞台(県指定重要文化財)



秋祭りで賑わう様子

(3) 岩野邊の二宮神社



鳥居 (奥に夫婦イチョウ)



本殿



神楽殿 (農村歌舞伎舞台)



本殿の絵馬

(4) 下河野の八重垣神社



八重垣神社遠景(県道から)



本殿



農村歌舞伎舞台 (いつでも中が見られる)



廻り舞台の切れ込み

(5) 河内の中ノ宮神社



中ノ宮神社境内 左は大ケヤキ (市指定文化財)
右は大スギ (県指定文化財)

不思議な鳥居
(3分の1が道路で隠れている)

大ケヤキ根元の「カ石」

3 お塚さん

(1) 大森 (宇野) のお塚さん (宇野政頼主従墓所)



町内に幾つかある「お塚さん」のうちで最も有名で、「千種
哀史」とでも名付けるべき墓所がこのお塚さんである。天正
八年(一五八〇年)五月九日、秀吉に攻め落とされた山崎長水
城主宇野政頼主従が落ち延びたのが、この千種大森の段。親
戚の美作新免氏を頼っての行軍であったが、折からの洪水で
千種川を渡ることができず、対岸の山の岩から聞こえてきた
笛の音を敵のものと思ひ、進退窮まって自刃。後に建立され
た五輪塔は、今も長水城を向いて立っている。

(2) 黒土のお塚さん



教信上人墓所



西蓮寺

親鸞や法然が尊崇してやまなかったという「教信上人」は、西国での布教活動の帰途、千種で客死された。以来、千種の人々は「西蓮寺」を建立し、春に「千種念佛」を行い、上人の遺徳を偲んでいる。昔は参列客が3千人以上にもなり、大変な賑わいであったという。



西蓮寺参道

(3) 西河内のお塚さん (伝佐藤盛唯墓所)



西河内の村に入ると左手に3体の塚が目に入ってくる。岡山や鳥取県境に近いこの村は、古来たたら製鉄や炭焼き及び木地師などを生業として栄えていた。製鉄等で功のあった佐藤盛唯という人物の墓であるという言い伝えがある。平成となった今も、村人は親しみを込めて「お塚さん」と呼んでいる。



4 一里堂



千種の南端、下河野村の入り口に立つ「山里千種」のシンボル。間口41m、奥行41mの葎茸宝形造（かやぶきほうぎょうづくり）で、江戸時代から旅人の休憩所として親しまれてきた。中には五体のお地蔵様がおられて、旅の無事を祈って下さっている。

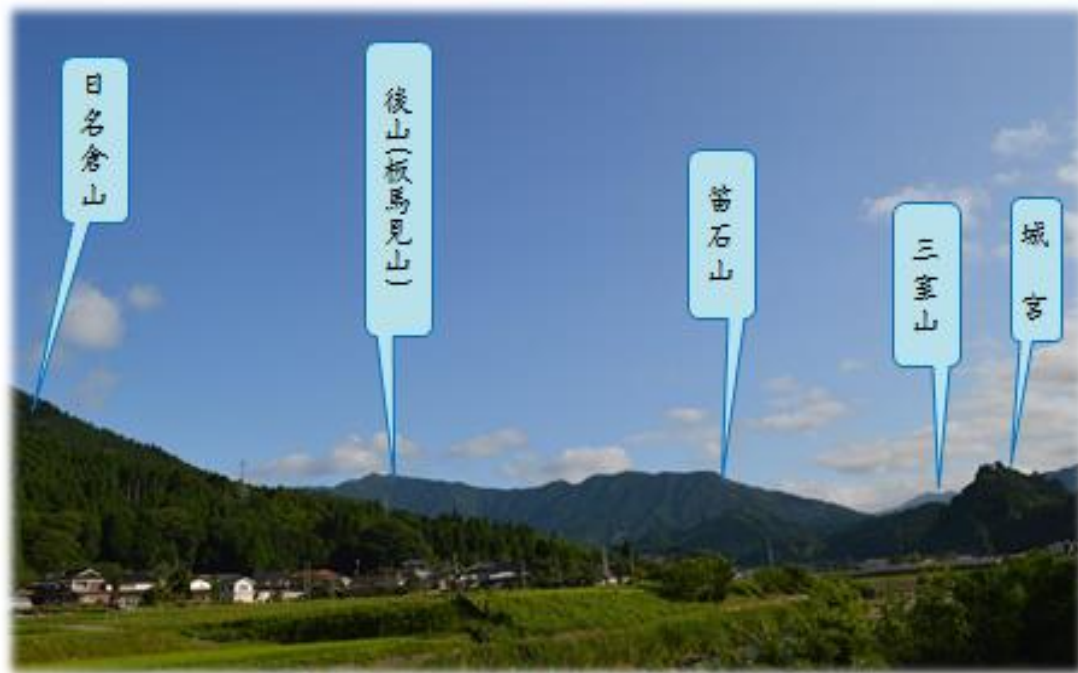


風花を
招き入れてや
一里堂

昔は、一里堂の南にある「塩地峠」を越えて、千種からは「千草鉄」や炭が、千種へは塩・醤油・酒・油などが運ばれていた。「一里塚」は全国各所に今も残っているが、こうやって「一里堂」が大事に残されている村は珍しい。是非、千種にお越し下さい。



5 千種の山々



七野から千種の山々を望む

(1) 三室山 (三室=御室=神のおわします山)



七野から望む三室山と清流千種川

校歌1番に、「緑すがしき 山脈の
極みに高し 三室山 厳しきすがた
仰ぎつつ…」とある。学校から日々
三室山を望み、凜とした気持ちで勉
学に、部活に向かうことができる。
厳しき父であり、恵みの母でもある。



千種高校から望む冬の三室山

(2) 日名倉山



千種高校の背景に聳える日名倉山



千草カントリークラブから望む（左の山）

本校の校歌3巻に「ああ、秀麗の三の丸」と詠われている日名倉山。麓には「日名倉神社」があり、頂上には小さな祠が祀られている。今でも村人の信仰を集める聖なる山である。岡山県側からは、その姿故に「美作富士」と呼ばれている。



日名倉山（三の丸）頂上

(3) 笛石山（千種富士）



河沿より望む千種富士



千種高校本館上に見える笛石山



猫石（正面から）



猫石（左斜め下から撮影）

(4) 後山 (板馬見山、寺谷山)



下河野より望む後山 (冬)



日名倉山より望む後山 (初夏)

「道の駅ちくさ」を過ぎて、下河野の村に入ると正面に雄大な山が目に入ってくる。「後山」である。兵庫県下第三の高峰、岡山県では最高峰である。登山口の村河呂では「板馬見山」と呼び、行者の修行場として知られ、頂上直下の村西河内では「寺谷山」と呼ばれ、旧千種北小学校の校歌にも詠われている。是非登りたい山である。



七野より望む早朝の後山 (早春)

6 千種を彩る花々

3月下旬～4月中旬



ミズバショウ



ミツマタ



ミツマタの花 (拡大)



桜 (ソメイヨシノ)



スイセン



レンギョウ

4月下旬～5月上旬



ドウダンツツジ(旧千種町木)



ドウダンツツジの花 (拡大)



白藤 (シラフジ)



アメリカハナミズキ (白)



アメリカハナミズキ (赤)



ワスレナグサ (忘れな草)

5月上旬～5月下旬



コバノミツバ (山ツツジの一種)



ツツジ



ウマノアシガタ



クンシラン (君子蘭)



オダマキ



ジャケツイバラ (カワラフジ)

5月下旬～7月



クリンソウ (ちくき高原)



クリンソウ (ちくき湿原)



ウツギ



アジサイ (33回生卒業記念)



ネムノキ (合歡の木)



ちくき高原ゆり園

7 天見屋鉄山 (たたら製鉄所跡)



クリンソウ
(九輪草)



たたら
の里
学習館

8 たたらの里学習館(千種町西河内)



昔の天見屋鉄山(ジオラマ)



たたら場で用いていた道具類



高殿(たたら)とその地下構造模型



千種中学生が作った鉄で鍛えた太刀と短刀(平成17年3月)

鉄山諸用具



鉄の踏鞴(たたら)



日本山海名物図會

編者 平瀬 徹齋
画工 長谷川 光信



鉄山の繪



9 たたら製鉄学習（千種学講座）

平成9年、天見屋鉄山跡に「たたらの里学習館」が造られ、古代以来1500年以上にわたって千種の地で行われてきた「たたら製鉄」の歴史について、各種の製鉄用具や「たたら場」の模型及びジオラマ等を見ながら学ぶことができるようになった。以来、千種中学校では「たたら製鉄学習」に取り組み、千種を愛し、千種に誇りを持つ教育「千種学講座」が連綿と受け継がれ、今年で18年目を迎えている。この項では、その取り組みについて紹介する。

(1) 砂鉄の採集

千種中学校では、平成9年以來夏休み前に「一人1kgの砂鉄を集めてくること」という宿題が2年生に出されている。以下の写真は昨年のものであるが、千種小学校5・6年生も加わることとなった。各自大きな磁石で砂鉄を集めている。



(2) 鉄穴流し (かんながし)



「鉄穴ながし」とは、本来山中で「山砂鉄」を採集するために山の斜面に大きな溝を作り、水を流して山土と砂鉄とを分離する作業工程を言うのであるが、千種中学校では、夏休み中に生徒が川で採集してきた「川砂鉄」を写真のような「樋(とい)」に水と共に流してゴミや砂を取り除き、より純度の高い砂鉄とする工程を現在「鉄穴ながし」と呼んでいる。この工程で再度集められた砂鉄は、右の写真のようにして何日間も天日で干して乾かし、10月に「たたらの里学習館」で行われる「たたら製鉄実習」での本番に臨むのである。

(3) たたら製鉄実習 (於：たたらの里学習館)



① 金屋子(かむろ)の神に安全祈願



② 火入れ式



③ 炭切り



④ 土団子(粘土玉)作り



⑤ 木炭投入



⑥ 砂鉄の投入



⑦ 粘土玉で炉を密閉



⑧ 消防団用防火服を着用



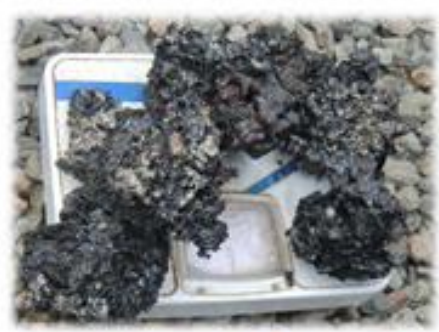
⑨ 特殊温度計で炉内温度を測定



⑩ のろ出し



⑪ 鉾(けら)出し



⑫ 水で冷やしてできた鉾(けら)

最後に、私たちが中学2年生の時に取り組んだ実習の成果や概要についてまとめておきます。

①実施日	平成23年10月18日(火) 晴れ
②場 所	千種町西河内天見屋たたら公園
③参加生徒	宍粟市立千種中学校2年生39名
④講 師	宍粟鉄を保存する会 5名
⑤火入れ	午前8時55分
⑥砂鉄投入開始時刻	午前9時14分
⑦使用した砂鉄の量	51.0kg
⑧使用した木炭の量	75.6kg
⑨砂鉄投入採取時刻	午後2時27分
⑩「鋳出し」の時刻	午後3時40分
⑪「鋳の重さ」	約15.25kg

<注>この資料は、家島高校との文化交流の場で2年生が発表するために作成された。
従って、上記の「私たち」とは現2年生（41回生）を示している。

1 0 千種太鼓について

本校のアクティブコースは、学校設定教科「アクティブ」の中で、和太鼓を始め、陶芸・木工・写真・地域貢献等の授業を展開している。特に、和太鼓は地域の伝統芸能「千種太鼓」の伝承を目的として懸命に取り組む、近隣の施設等で時折公演を行っている。



1年アクティブコース和太鼓公演

平成25年第39回文化祭[平成25年6月15日(土)]



ご高覧いただき
ありがとうございます。
四季折々の自然豊かな
千種へ
是非お越しく下さい！

